

高齢インドライオンの飼育管理について

古田 洋

(横浜市立よこはま動物園)

高齢のインドライオンのメス3頭（共に2000年6月3日生）を飼育管理するにあたり、ハズバンドリートレーニングによる採血を行った。採血時、動物が柵に対して体を横付けするよう誘導し、水飲み用バットを取り外してできたスペース（66×35×10cm）から尾を手繰り寄せ、尾の静脈より行った。採血実施までに要したトレーニング回数は、個体により46回から50回であった。

また、飼育環境の改善として、運動場での滑り止めのために、傾斜部に土留め用丸太（長さ約5m、10本）を設置した。また、寝室の床面（10㎡）のほぼ全面におが粉約500kgを敷き詰めた。おが粉を敷く前、メスの一頭は正常な歩行ができないほど運動機能が低下していたが、敷いた後は、自ら歩行移動することが可能となり、QOLの著しい低下を免れたものと考えている。今後もより良い飼育環境を目指して飼育にあたっていきたい。